



ごみ処理施設建設費の縮減に向けた検討

財政的制約の中で、効率的なごみ処理施設の建設を目指すための検討を行います。

京都第2清掃工場（さすてな京都）煙突展望台

目的

新設予定のごみ処理施設において、財政的制約の中で建設費の縮減を図るため、考え得る選択肢を整理し、学識経験者等を交え検討します。

なお、事業費の具体的な目標としては、約378億円（※）を目標金額とします。

※前回調査（新ごみ処理施設整備におけるごみ処理方式の選定に係る調査検討業務）におけるパターン②-2ごみ燃料化施設（フラフ）の交付金1/2想定 of 建設費および20年間の運営費。





背景

- **建設資材価格・人件費の高騰**
建設コストが全体的に上昇傾向にあります。

- **複雑化する処理機能**
ごみ処理およびエネルギー回収にかかる各種設備の機能が高度化しています。

- **周辺住民との合意形成によるコスト上昇**
地域との協力関係構築に要する費用も増加しています。

こうした中、抜本的な設計・整備手法の見直しが必要です。



建設費縮減の主な検討素案



A. 設計流用

概要: 他自治体の設計を全部もしくは一部修正流用

効果: 設計費縮減、期間短縮

留意点: 立地条件や組合要求水準との整合性



B. 標準構造化

概要: 建屋・配置等の定型化をプラントメーカーに提案

効果: 建築費削減、工期短縮

留意点: 拡張性・柔軟性に課題



C. 施設構成見直し

概要: 付帯施設整備の必要性再検討、一部施設を後年整備、盛土範囲の再検討

効果: 初期コスト抑制

留意点: 代替施設の検討・新プラ法対応



D. 搬入道路見直し

概要: 搬入道路整備（市道ルート）等の見直し

効果: 間接費削減

留意点: 彦根市道路施策との整合・地元理解



E. 建築意匠の見直し

概要: プラント施設のうち、屋外に建設可能な設備を建屋外整備のほか、仮設構造の活用・構造の単純化を検討

- 効果: 建設費の縮減、換気空間の減による運営費の縮減
- 留意点: 景観への配慮・地元理解



G. 環境学習施設の見直し

概要: 従来型の体験型施設から、IoT技術の活用により、いつでもどこでも環境学習に取り組める環境を整備

- 効果: 施設整備費用の縮減
- 留意点: 教育関係者の理解



F. 焼却炉見直し

概要: 単炉化や能力調整（供用開始から数年間は一部外部委託等）

- 効果: 整備費縮減、維持費軽減
- 留意点: 将来需要変動への対応度の見極め



H. リサイクル率の向上とごみ減量

概要: 組合構成市町と連携し、更なるごみ減量とリサイクル率の向上を模索し、処理対象ごみ量の軽減を検討

- 効果: 施設整備費用の縮減
- 留意点: 住民理解

検討内容の整理

- 複数案の採用も含め、当組合の費用削減目標を満たすことができるか？
- 地元住民の理解も含め、現実的に採用できる手法か？
- 初期整備費用と長期運営費用のバランスは？
- 周辺道路等のインフラ整備費用と物価上昇も考慮のうえ、組合構成市町が財政的に負担可能な方策を導きだす。
- ごみ処理施設の中で廃棄物そのもののもつエネルギーを可能な限り回収し、電気等の供給拠点となるよう考慮する。





費用削減に向けたアプローチ

技術的・財政的な精査

各案に対する詳細な検証を行います。

先進自治体の事例調査

成功事例や課題を収集し、横展開が可能か分析します。

優先順位の整理

実行に向けた方向性を検討します。

見学者通路：ストーカ炉模擬体験：ジオラマ